

教員養成課程における学生による運動会の意義について

The significance of Sports Days for students in a teacher training course

三小田 美穂子, 藤井 千恵子

Minako SANKODA and Chieko FUJII

国士館大学体育学部こどもスポーツ教育学科は小学校の免許と中学校・高等学校の保健体育の免許が取得できる学科である。カリキュラムは体育及び小学校の教員に必要な教職関係の授業が必修となり、その他に選択科目としてこどもスポーツ(陸上競技)(柔道)(サッカー)など多くの授業が開設されている。これは、心身ともに充実した小学校の教員を育成することを目指していることを示すものである。

このような特色のあるこどもスポーツ教育学科において、学生が運動会を企画・運営することは高い専門性と優れた実践力を身に付けるために意義があると思われる。

そこで、本研究では学生自身が企画・運営した運動会がどのような意義を持つのかを探り、さらに今回の実践の考察から学生の資質を伸ばすための運動会の実践方法を明らかにしたい。

1 運動会の意義と実施方法

(1) 意義

運動会の実施の意義は大きく二つに分けられる。それは、①運動会を企画・運営する方法を知ること。②教員に必要な資質を身に付けることである。では、それぞれの意義について考察してい

きたい。

①運動会を企画・運営する方法

運動会ではどのような競技が選択され、どのように並べられ、組み合わせられているかを知ることができる。競技も種別や団体競技、個人競技など様々な形態があり、それらのバランスを考えて組み合わせることが重要である。また、子どもに合わせて競技を選ばなくてはならないことから、子どもの発達や子どもの状態についての認識が深くなければならないことを学ぶことができる。

運動会を運営していくためには、何を、いつまで、どのように準備しなければならないのか、運動会の準備過程や当日にはどのような仕事があり、そのためにどのような係りを設定するべきか、その仕事をいつまでに仕上げなければならないか、などを見通し、計画するなど、非常に多くの過程を経なければならない。この実践を通して、運動会だけではなく、行事を企画・運営していくための方法について学ぶことができる。

②教員に必要な資質を身に付ける。

これは、技術的な側面と資質的な側面とに分けられる。技術的な側面では、競技を指導する力や子どもを対象とする指導方法などを身に付けることができる。また、実際に多数の子どもたちに触れることができることから、子どもについて理解

することができる。

資質的な面では、運動会などの行事を見通しを立てて企画・運営していく力、互いの知識や情報を持ち寄って討論しながら、創り上げていく創造力、互いの思いを押し量り合い、係り活動を円滑に進めていくために必要なコミュニケーション力、自分に割り当てられた仕事を最後までやり遂げようと売る責任感など様々な能力を育てることができる。

運動会を通して育成することができる資質と技能として以上のことを想定したが、これは中央教育審議会「新しい時代の義務教育を創造する」で示された「①教職に対する強い情熱 ②教育の専門家としての確かな力量 ③総合的な人間力」という教師像に合致するものである。

(2) 方法

学生による運動会実施の意義はこのように大きいですが、その実施方法によってその意義は大きく変わってくる。学生たちが試行錯誤しながら創り上

げていく過程が重要であると考え、学生の自主的な活動を重視し、教員は適宜アドバイスを与えるという方針をとった。学生は自主ゼミのメンバーを中心として、実行委員会を結成し、必要に応じて学年全体から協力者を募るといった形をとった。

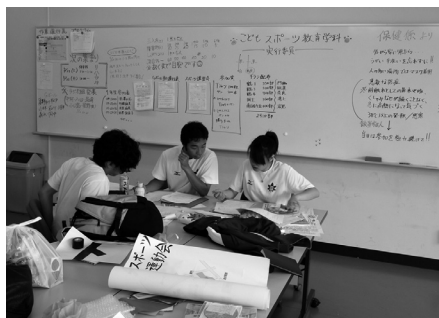
こどもスポーツ教育学科の学生全員が形で参加することが望ましいと考えたが、様々な事情から運動会当日の全員参加は難しく、各学生の状況にあった参加方法を認めることになった。このような様々な立場を認めながら、参加を促していこうとする姿勢は教員志望の学生にとって望ましいことである。

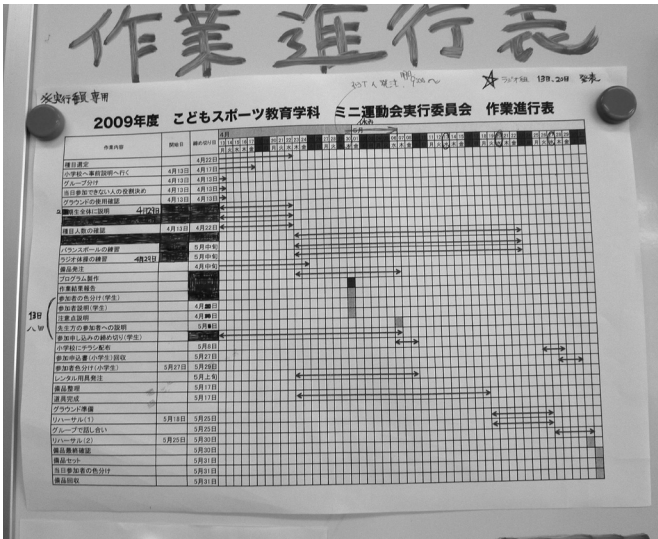
第1回目の運動会であることから実施時間を2時間ほどの小規模のものとした。対象は小学生とし、担当の学生が近隣の小学校に趣旨を説明に向き、参加の依頼をした。



2 実践内容

(1) 経過

月日	内 容
H20, 11,	<p>自主ゼミにおいてミニ運動会の実施についての検討を始める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施するかどうか ・やるとしたらどのように行うか
H20, 12,	<p>何ができるのか 学年全体の同意は得られるのか 役員を決める。実行委員長、副委員長、書記、会計等</p>
H21, 2, 13	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日を鶴川祭の5月30日あるいは31日に実施する。 ・場所はサッカー場（雨天の場合は第3体育館） ・参加者 小学生を中心に ・種目 リレー、大玉ころがし、綱引き、しっぽ取りゲーム、ダンス、ラジオ体操、組み体操、騎馬戦など



	<ul style="list-style-type: none"> ・係り活動 事前に必要なこと 当日必要なことを予想して決める ・全員の学生にアンケート実施 内容（当日参加、前日までの準備に参加などいずれかに協力できるかどうか）
<p>H21, 2, 27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日 5月31日（日）に決定 ※近隣の小学校が30日に運動会が実施されることが分かったため ・鶴川祭の担当に参加団体申込書、パンフレットの原稿等を提出 ・開会式、閉会式のプログラム作成 ・種目の決定 ・参加児童は赤白にわかれて競技する ・予算について 必要な用品等をリストアップする 
<p>H21, 3, 23</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PRをどうするか。小学生が集まってくるのか。 ・事前に学校にお願いする。（4月に入ってから） ・チラシを配る。申込用紙をつけるか、つけたら回収はどうか？ ・準備すること チラシ作り→5月7日まで 道具→借用書を作成し、借りる。 プログラムを決める。 ・当日の係り決定 受付（名簿作り） 進行・放送（進行台本、プログラム作り、マイクなどの機器） 得点・決勝（得点板、点数配分） 用具（借りるもの、作るもの、借用書作成） 保健（保健室に指導を受ける） 誘導（落ち着いたら動く） 記録（当日の写真等） ・企画紹介文作成「学校の先生を目指している私たちが、みんなと交流を深めようとミニ運動会を企画しました。一緒に体を動かして楽しみましょう。」
<p>H21, 4, 6</p>	<p>実行委員長と副委員長とで西山教授から運動会に関する指導を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ運動会の意義、トラックの作り方など
<p>H21, 4, 8</p>	<p>サッカー場の使用許可を得る。</p>

H21, 4, 13	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校への訪問 担当を決める ・プログラム決定 ・看板をどうするか ・種目の対象学年をどうするか ・テントが必要 ・放送機器をどうするか ・備品を購入するための予算 ・予算案を作成 カタログ 	<table border="1" style="float: right;"> <tbody> <tr><td>開会式</td><td>8分</td></tr> <tr><td>玉入れ</td><td>5分</td></tr> <tr><td>障害物競争</td><td>20分</td></tr> <tr><td>スポーツ講習会</td><td>25分</td></tr> <tr><td>しっぽ取りゲーム</td><td>5分</td></tr> <tr><td>バランスボール</td><td>15分</td></tr> <tr><td>混合リレー</td><td>20分</td></tr> </tbody> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>	開会式	8分	玉入れ	5分	障害物競争	20分	スポーツ講習会	25分	しっぽ取りゲーム	5分	バランスボール	15分	混合リレー	20分
開会式	8分															
玉入れ	5分															
障害物競争	20分															
スポーツ講習会	25分															
しっぽ取りゲーム	5分															
バランスボール	15分															
混合リレー	20分															
H21, 4, 16	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の学生を対象に係り分担のアンケートを行い、掲示板に掲示する。 ・こどもスポーツ教育学科会でミニ運動会の開催について報告する。 															
H21, 4, 21	<ul style="list-style-type: none"> ・学部長に報告 鶴川祭担当者 同席 ・予算的な配慮依頼 															
H21, 4, 22	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校に依頼した状況を報告 <ul style="list-style-type: none"> A小 距離が遠い 地域の子供会の方に協力を依頼するように B小 副校長が対応 校長に連絡してもらえない C小 競技中の事故はどうか尋ねられた D小 連絡なし E小 保険関係をしっかりとって再提出を ・競技中の事故については鶴川祭時のみ保険の補償は可能 ・ラジオ体操 バランスボールなどの準備 ・鶴川祭の広告に掲載する内容を決定 ・雨天の場合は第3体育館を借りられることになる。 															
4月から 5月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ・係ごとに準備を進める。 ・看板作成のためのペンキや刷毛、しっぽ取りゲームの紐、花を作る紙など様々な物品の購入 計画及びそれらの購入 4月30日 <ul style="list-style-type: none"> ・参加賞として国士館のTシャツとシャープペンシルをいただく 5月11日 サッカー場の下見 鶴川祭担当者及びサッカー部の協力 5月14日 教授会に報告 5月16日 鶴川の地域の会合に参加、ミニ運動会のチラシについて説明 参加・協力を依頼 															

<p>H21, 5, 18</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・細部にわたって検討 ・リハーサルを 5月23日(土)第4体育館にて実施予定 1年生に子ども役として参加するよう協力を依頼 ・新型インフルエンザの流行の兆しがあるため、その対策を練る。 健康管理室から指導を受ける。 ・マスク着用 受付で消毒 体調の悪い人は検温 終了時にうがい(うがい液購入) 	
<p>H21, 5, 23</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10時からリハーサル 1年生も多数参加 ※取材あり 多数の課題あり 連絡の不十分 動き方等について徹底不足 	
<p>H21, 5, 25</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5限終了後 部屋でリハーサル 	
<p>H21, 5, 27</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看板完成 	
<p>H21, 5, 30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前日準備 のぼり旗、万国旗、テント等の設置 多数の学生が参加 ・評価用紙を作成 	

<p>H21, 5, 31 当日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7時45分集合 ライン引き、 受付、放送等の諸準備を行う ・ 9時30分ごろから子どもたちが集まり始める最終受付人数 88名 ・ 10時5分ごろ 開会式 ラジオ体操 玉入れ <p>※取材あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玉入れ終了直後、雨が降り始める ・ 第3体育館に移動する 実行委員長の判断と全体の委員長の配慮による ・ 体育館に移動後、プログラムを変更して実施 しっぽ取りゲーム ・ スポーツ講習 バランスボールの演技 ・ 閉会式 後片づけ 	
<p>H 21, 6, 3</p>	<p>・ 後片付け 反省会</p>	

(2) 内容

①係りの活動状況及び実施結果について

運動会を実施するに当たり決定した係りは次の通りである。「受付、進行、得点・決勝、用具、会計、保健、誘導、看板」。係りの担当の決定に当たっては、全学生にアンケートをとった。当日参加することができず前日までの準備にかかわることができる学生には、花を作ったり、しっぽ取りゲームの紐を作ったりする作業に参加すること

にした。

学生は、昼休みや空いている時間帯に準備室にてそれぞれ作業を進めた。

②各係りの内容等について

各係りの担当者に運動会終了後、事前に行ったこと、当日行ったこと、気付いたこと、来年に生かしたいこと、学んだことについて、記述による調査を実施した。

係名	人数		
受付	準備 2名	事前	・小学生の学年や紅白、番号を分ける名札の作成 参加者記入枠の作成 参加学生の紅白わけ 名簿作成
		当日	・準備したものを元に、当日4名で対応
	当日 4名	気付いたこと	・当日の受付人数が足りない。→6人以上必要 ・油性ペンの本数が足りない。 ・リハーサルをしっかりとする。
		来年に生かしたいこと	・服装をきちんとする。 ・感想用のアンケート用紙を受付時に配布する。 ・ラジオ体操は来年も実施する。 ・保護者の参加も多く、親子競技も実施したい。 ・学生によるパフォーマンスがあると面白いだろう。
		学んだこと	・初めて子どもとこういう機会がかかわったので、新鮮であり、ためになった。何よりはしゃいで飛びついてくる子どもたちを見て、教師を目指しているんだなと知らずのうちに再確認をしていた。 ・ラジオ体操をしているときは、何か、教師の目線というものを感じた。
進行	3名	事前	・進行表づくり 進行表にしたがった原稿を作成 ・音楽を決める ・リハーサルにおける進行の確認
		当日	・司会進行
	当日	気付いたこと	・臨機応変に対応しないと難しい。 ・進行担当者は、全体の流れをつかんでおくようにする。 ・音響はタイミングを繰り返し確認することが大切。 ・一つの種目に対する予定時間は多めにみるとよい。余裕をもってできるように ・言葉づかいをしっかりとする。
		来年に生かしたいこと	・気づいたことを実現する。 ・自分たちの運動会をやってみたい。
		学んだこと	・上に立つ人はすべてを把握しておいたほうが良い。その場を指示する人をはっきりとさせる。司会をやりながらまとめることは大変である。しかし、自分たちでつくっているものだから成功させたいという気持ちだけで行った。なぜ、この運動会を開催することができたのか、もう一度考えてみたほうが良いと思った。

得点 決勝	10名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・得点板づくり（得点板の材料を購入） 得点配分 ・ゴールテープの準備 決勝用の等賞旗を購入 ・決勝係りのリハーサル 順位ごとの並べ方など
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・得点を入れる
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが話を聞いていなかった。例えばしっぽ取りゲームは、しっぽを配る前に説明するなど、聞いてもらえるような配慮をする。 ・得点板が弱かった。丈夫な板にするべきだった。 ・意外に子どもが集まった。 ・雨のため体育館に移動したが、スムーズに移動できた。
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ講習会を長くしたい。 ・時期をずらし土曜日に実施したい。 ・学生だけの運動会を実施したい。 ・決勝係りは出番がなかった。天気を晴れにしたい。
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをまとめるのは大変だった。 ・子どもとの接し方 同じ目線で ・言葉づかいをきちんとする。爪を切る。 ・多くの人の協力が大切
用具 会計	4名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の発注 カタログから発注 ・発注した用具の確認 準備 ・予算の確認 領収書の収集と整理
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・用具の出し入れ
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な物品が増えていくことへの対応 ・当日の配置と子どもの移動が難しかった。 ・グラウンドの確保 ・係り等の準備等についての集まりの頻度 ・実行力 念を入れた確認 ・指示の伝達 ・幼稚園から中学生までの子どもに対しての対応の仕方の違い
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・今年使えなかった物品を来年度に活用する。 ・新しい競技の取り入れ ・参加の子ども的人数確保
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめることの難しさ ・臨機応変に対応する力の必要性 たとえば怒ってよいのかどうか ・地域からバラバラに集まるのではなく、幅の広い年齢の子どもたちに対しての接し方 ・年齢に合わせた種目の検討

保健	2名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の健康管理室からの指導を受ける。 ・当日必要な物品の準備 ・けがをした場合の対応方法 大けがの場合の休日当番医の確認 ・新型インフルエンザの流行への対策 うがい・手洗い イソジンのうがい液準備
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・けがは1名 擦り傷 ・水分補給 提供された飲料を配布
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・保健専用でテントが必要 ・飲料がぬるくなってしまった。→氷水を用意し冷たい飲み物を提供したい
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・保健用のテントを用意し、子どもがゆっくりできる場所を確保したい。 ・体育館における保健係りの待機場所 ・トイレの場所の連絡や説明 ・氷水 ・保健係は4名必要 ・今年できなかった種目を行いたい。 ・子どもたちの荷物置き場が必要
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・天候への対応 ・タオルや冷たい飲料水を持ってきてもらうようにしたらどうか。
誘導	7名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・プラカードづくり ・流れの確認 リハーサルによる確認
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・プラカードの活用による子どもの誘導 ・呼び込み
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・プラカードがもろかった。 ・誘導係りの人数が足りない。目が行き届かない。 ・観客席への誘導 子どもたちの荷物の置き場所
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・学生と小学生のペアを組んだ種目の設定 ・子どもとのコミュニケーションを充実させたい
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは元気 小学校の先生っていいなと思った。 ・学生と仲良くなりすぎて話を聞いていなかったりするので、どのようにしたら話を聞いてくれるのか考えさせられた。

出発 合図	2名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・合図用のピストルの練習 ・リハーサルで合図をする時期等の確認
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・玉入れ、しっぽ取りの合図
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップウォッチが必要 ・玉入れなどは当日の様子を見て、時間を変更した。 ・もし障害物競争をやったら、合図の仕方がうまくできたかどうかあやふやだった。
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ストップウォッチの準備 ・リハーサルをしっかりとやり、タイミングなどを確認する。 ・時間で区切る種目は臨機応変に行う。
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・準備の大変さと大切さ ・やればできるということ ・子どもが好きだということを再確認することができた。 ・協力があってこそその運動会だった。
看板	8名	事前	<ul style="list-style-type: none"> ・看板のデザイン作成 ・プログラムを含めた看板も作成
		当日	<ul style="list-style-type: none"> ・門とサッカー場の入口への設置
		気付いたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・色の配分の難しさ ・刷毛などの後始末 ・看板の設置場所の見当 ・制作のための日程や人数の計画とその実行 ・もう少し大勢の人にかかわってほしかった。
		来年に生かしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・当日、参加できない人のために看板を大きくしたり、装飾を工夫したりするなどの工夫をしたい。 ・中学生も来ていたので、来年はもう少しみんなが楽しめる競技を考え、体育館でも外でもできる競技を入れたい。 ・1年生にも話し合いに参加してもらい、全体の内容を把握して当日に備えるようにする。来年は、1～3年生の全体で実施してみたい。
		学んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人に話を聞いてもらうのは大変だった。 ・子どもが並んでいる隣に学生も並んでもらい、子どもたちに話を聞くように促すことができればよいと思う。

③ミニ運動会の実施状況

- ・ 5月31日（日）予定通りサッカー場にて実施
 - ・ 7時45分集合 2年を中心に1年の学生も多数協力
 - ・ サッカー場にラインを引く
 - ・ 前日に準備してあった幟、テント、受付等の机などを所定の位置に設置
 - ・ 万国旗を張る
 - ・ 看板等を置き、開始前に鶴川祭に来ている子どもたちに声をかける
 - ・ 幼児から中学生まで88名の参加あり
- ・ 10時に開会式 ラジオ体操 玉入れが終了した時点で雨が降り始める。
 - ・ テントに避難したが雨は降り続き、体育館を開けてもらい移動することに
 - ・ そのために体育館の整備を急ぎょ行う（チアリーディング部の発表の場を移動していただくなど、鶴川祭実行委員長の配慮があった。）
 - ・ 体育館に移動
 - ・ しっぽ取りゲームとスポーツ講習（バレーボール、アルティメット）、閉会式を実施
 - ・ 後片付け



〈受付の様子〉



〈開会式〉



〈紅白玉入れ〉



〈スポーツ講習会〉

5 アンケート調査結果と分析

運動会実施後に、学生が運動会を通して何を学び、何を考えたかを調査した。自由記述で書かれたものを分類すると大きく①人間関係力・コミュニケーション力、②企画・運営力、③子ども理解力④指導力、の4つに分けることができた。

①人間関係力・コミュニケーション力では、「皆で力を合わせて一から作り上げていくことの難しさと喜び」や「みんなで協力するからこそいいものができる」などの協力することの大切さについての記述が多くみられた。次に、「周りの人を動かすことのたいへんさ」や「話し合いの方法を考えるべきだ」などのコミュニケーションをとることの難しさやその方法を身につけるべきだとする記述も見受けられた。

②企画・運営力に関しては、「何かを企画し、実行することはたいへんである」、「しっかりとした準備が大切である」、「広い視野を持って企画することが大切である」などがあげられる。これらの記述より、運動会のような行事を実施するためには広い視野と見通しを持って計画し、それを着実に実行していかなければならないということがわかったのではないと思われる。

③子ども理解力の記述では、「子どもっていいなあって思った」、「子どもとの交流は楽しかった」などの子どもと触れ合った率直な感想が見られた。子どもについて理解すると同時に教員を目指したいという気持ちを再確認する機会となったのではないと思われる。また、「子どものことを理解するにはこういった経験を積んでいくことが大切である」という記述から、子どもを理解することの大切さとその方法についても知ることができたようである。

④指導力に関する記述では「行動の指示は的確にしっかりと伝えることが大切である」などの学習指導力に関するものと、「子どもたちが集まったときに静かに

話を聞いてもらうことは難しい」、「子どもをまとめるのはたいへんだった」などの集団指導力について言及したのが見られた。指導力は子ども理解力と共通する面もあり、子どもを理解した上で、集団をまとめ、的確に指示をしていける力を身につけたいという意図が読み取れた。

6 考察

<教員としての資質の観点から>

中央教育審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」(平成17年10月26日)では、教師に対する揺るぎない信頼を確立するために、質の高い教師を養成・確保することが不可欠だとして、あるべき教師像を明示している。

①教職に対する強い情熱

教師の仕事に対する使命感や誇り、子どもに対する愛情や責任感、常に学び続ける向上心など

②教育の専門家としての確かな力量

子ども理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力、教材解釈など

③総合的な人間力

豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力することなど

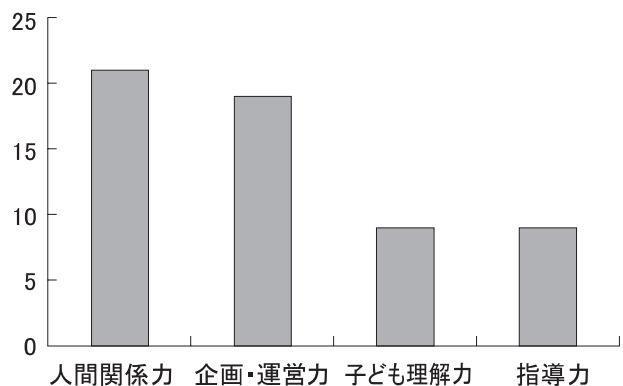


図1 ミニ運動会で学んだこと

また、東京都教育委員会では、平成20年10月に「教員人材育成の基本方針について」を公表した。そこには、「教員が身に付けるべき力」として、「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」があげられている。とりわけ、「外部との連携・折衝力」や「学校運営力・組織貢献力」については、若手の教員であろうとも学校の組織の一員であることを自覚し、学校を支える力を身に付けることが期待されている。

これらの視点から、ミニ運動会の実施によって学生にどのような力を育成することができたかを考察する。

・「教職に対する強い情熱」について

学生の事後のアンケートには、この企画を通して「自分は子どもとかかわることがやはり好きだったということを再確認した」という記述も見られた。子どもと直に接することにより、愛情や責任感などを改めて自覚している。将来の自らの姿を重ね合わせ、学生として学ぶ意味や価値を意識することができた点は、この学科で学ぶ意味と合致し、有意義な企画となった。

・「教育の専門家としての確かな力量」「学習指導力、生活指導力・進路指導力」について

大勢の子どもに語りかけることは教職に就いている者にとっても容易なことではない。司会進行や競技の説明、諸注意など、学生が懸命に話しても子どもはなかなか聞く耳を持たない場面も見られた。「小学生の子どもに分かる話し方、引きつける話し方などを身に付けることの必要性を感じ取った」とアンケートにも記述されていたが、こうした経験は今後の教職課程を学んだり、教育実習を行ったりする際に、生かすことができると考える。

・「総合的な人間力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」について

教科等の指導方法を学ぶ授業とは異なり、実際に学生が自ら企画し運営する場となった。その一つは、行事の運営に必要な事項は何か、それにつ

いてどのような手だてで具体化を図ればよいか、などを検討した。前例がないだけにすべて手探りの状態であったが、学生は一つ一つ問題を解決することができた。学校で実施される多くの行事は、前年度の仕事内容や分担を引き継ぎながら改善を重ねているが、今回の企画のように最初から全てを自分たちの手で創り上げる経験はなかなか得られることではない。問題の所在を明らかにし、改善の視点をもつことができるようになったと考える。

二つには、必要な物品を洗い出し、カタログを参考に発注、購入するという経験や予算を獲得し、それに基づいて企画する経験をしたことである。何かを企画し、実施するには予算が必要であり、それを有効に生かして成果を出すことは、学校のみならず一般社会においても生かすことのできる力を身に付けたと考える。

三つには、組織の一員として協働することを学んだことである。アンケートには、一部の学生が主導して進めたことに対する意見もあったが、ほとんどの学生は「次に実施するときには一緒に進めたい、部活もあるができる範囲のことは協力したい」などの記述が見られた。授業の合間を縫って打合会を開いたり、役割分担表を作成したりするなど時間の制約のある中で、最大限の努力をしている姿を多く見る事ができた。また、中心となった実行委員のメンバーや協力を惜しまなかった各係りのメンバーの力は称賛に値する。協働することの難しさとやり遂げた成成感、例えば、看板が完成したときにメンバー同士でお祝い会をささやかに行ってたことにも現れている。

四つには、外部との折衝について実地に学ぶ機会があったことである。初めての実施のため、近隣の小学校を中心に協力依頼を行った。その際、事前にアポイントを取る、当日は訪問にふさわしい服装（スーツなど）に気を配る、必要な文書を整えて説明するなど社会人として、教員として求められる常識的な判断をしていた。また、学校によって管理職等の対応が多様であることや相手方

にも様々な事情がありこちらの思うようにはいかないことなどもよい学びとなった。また、新型インフルエンザの流行の兆しが見えたことによる対応も保健管理室の指導を受けながら臨機応変に対応することもできた。このように次々と出てくる問題に対してどのように善処するか、実行委員のメンバーはその都度話し合い、解決していくことができた。こうした経験も外部と連携し、問題を解決していく方策を学ぶ機会となった。

7 今後の課題

- ・今回だけの企画としないよう、次年度に引き継いでいく。できれば毎年2年が実行委員となり、こどもスポーツ教育学科の伝統的な行事としていく
- ・引継の方法についても考慮する。
- ・今回の反省を生かし、改善を重ねながらよりよいミニ運動会を実施できるようにする。